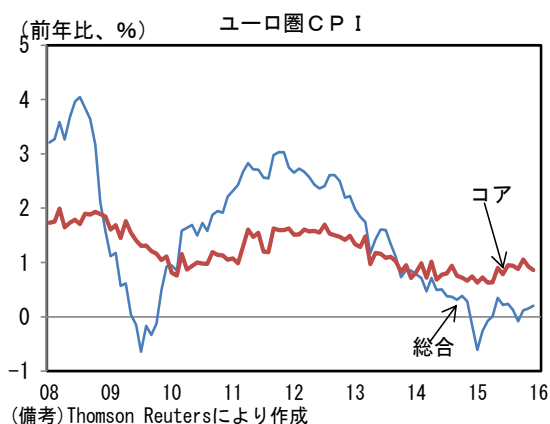


【海外経済指標他】～コア物価：底堅い～

- ・12月ユーロ圏CPIは前年比+0.2%と市場予想(+0.3%)を下回ったものの、3ヶ月連続でプラス領域をキープ。食料・アルコール・タバコ(+1.5%→+1.2%)が減速した一方、エネルギー(▲7.3%→▲5.9%)の下落幅が縮小。コア物価は+0.9%と11月から0.1%pt減速。コア財(+0.6%→+0.5%)、サービス(+1.2%→+1.1%)がそれぞれ減速したものの、既往の需給ギャップ縮小を踏まえると、このまま減速基調を辿るとは考えにくい。総合インフレ率は原油価格下落によって下押しされる可能性があるものの、コア物価のトレンドは崩れないだろう。

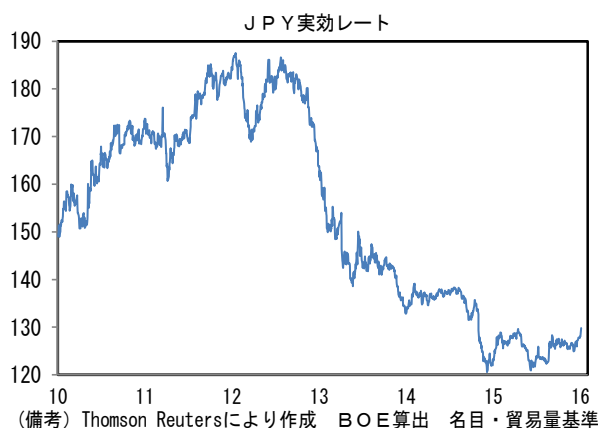
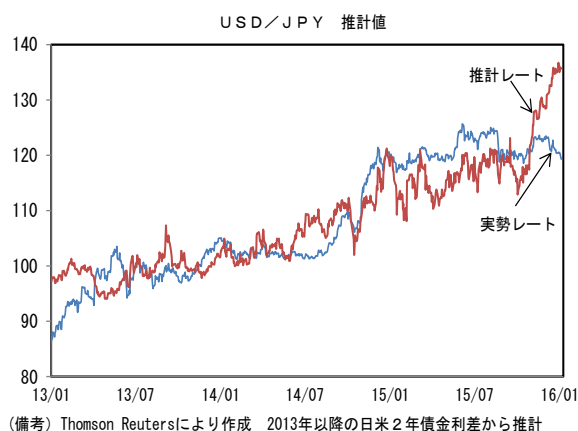


【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・前日の米国株は横ばい。4日に大幅下落した後とあって、値頃感も手伝い一旦下げ止まり。米国時間入り後に原油価格は下落に転じたものの、リスクオフには繋がらず。中国株が当局の介入によって下げ止まったことも押し目買いを後押しした。欧州株も4日に全面安となった反動から自律反発。WTI原油は35.97ドル(▲0.79ドル)で引け。
- ・前日のG10通貨はJPYが最強でそれにUSDが続いた。一方、その他通貨は全般的に軟調で、とりわけ欧州通貨の弱さが目立った。USD/JPYは119近傍で推移、EUR/USDは1.07半ばまで水準を切り下げている。
- ・前日の米10年金利は2.236%(▲0.7bp)で引け。株式市場のリスクオフは落ち着いたものの、原油価格下落に歩調を合わせ金利低下。欧州債市場は総じて堅調。独10年金利が0.540%(▲2.6bp)で引けたほか、イタリア(1.499%、▲5.0bp)、スペイン(1.688%、▲3.0bp)も金利低下。対独スプレッドはタイトニング。

【国内株式市場・経済指標他・注目点】

- ・日本株は直近2営業日で660円下げた後とあって反発スタート。その後は前日終値を挟んで一進一退。
- ・FEDの12月利上げの決定打となった10月雇用統計が発表されて以降、米2年金利は上昇基調を強め、日米2年債金利差が拡大している。しかしながら、それをよそにUSD/JPYは125を再度トライするどころか120近傍に沈み、日米2年債金利差の拡大と相反する推移となっている。2013年から直近までの日米2年債金利差を基に算出したUSD/JPYの推計値（筆者算出の理論値）が135近傍なので、足もとの乖離幅は約15円にもおよぶ。これは少なくともアベノミクス開始以降の最大で、USDを過小評価、JPYを過大評価している可能性が高いだろう。また、注目すべきは2015年入り後にUSDが独歩高となっているため、クロス円の円安はほとんど進行しておらず、寧ろEURや資源・新興国通貨の下落が進んだことによって実効レートでみたJPYは増価している点だ。実効レートといえば黒田総裁が、USD/JPYが125を跨いだタイミングで円安牽制と誤解される発言をしたため、市場参加者の間で“黒田ライン”として認識されているが、JPY以外の通貨の下落基調が続いているならば、USD/JPY上昇は許容され易いだろう。すなわち、他通貨以上にUSDに対してはJPYの下落余地があるということだ。USD/JPY130シナリオを確認。



<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	18300.91	-73.09
NYダウ	17,158.66	9.72
DAX(独)	10,310.10	26.66
FTSE100(英)	6,137.24	43.81
CAC40(仏)	4,537.63	15.18

<外国為替>※

USD/JPY	118.81	-0.25
EUR/USD	1.0747	0.00

<長期金利>※

日本	0.256%	-0.004%
米国	2.236%	-0.007%
英国	1.874%	-0.002%
ドイツ	0.540%	-0.026%
フランス	0.907%	-0.032%
イタリア	1.499%	-0.050%
スペイン	1.688%	-0.030%

<商品>

NY原油	35.97 <small>ドル</small>	-0.79 <small>ドル</small>
NY金	1078.40 <small>ドル</small>	3.20 <small>ドル</small>

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

